

図1 対策工全体計画平面図

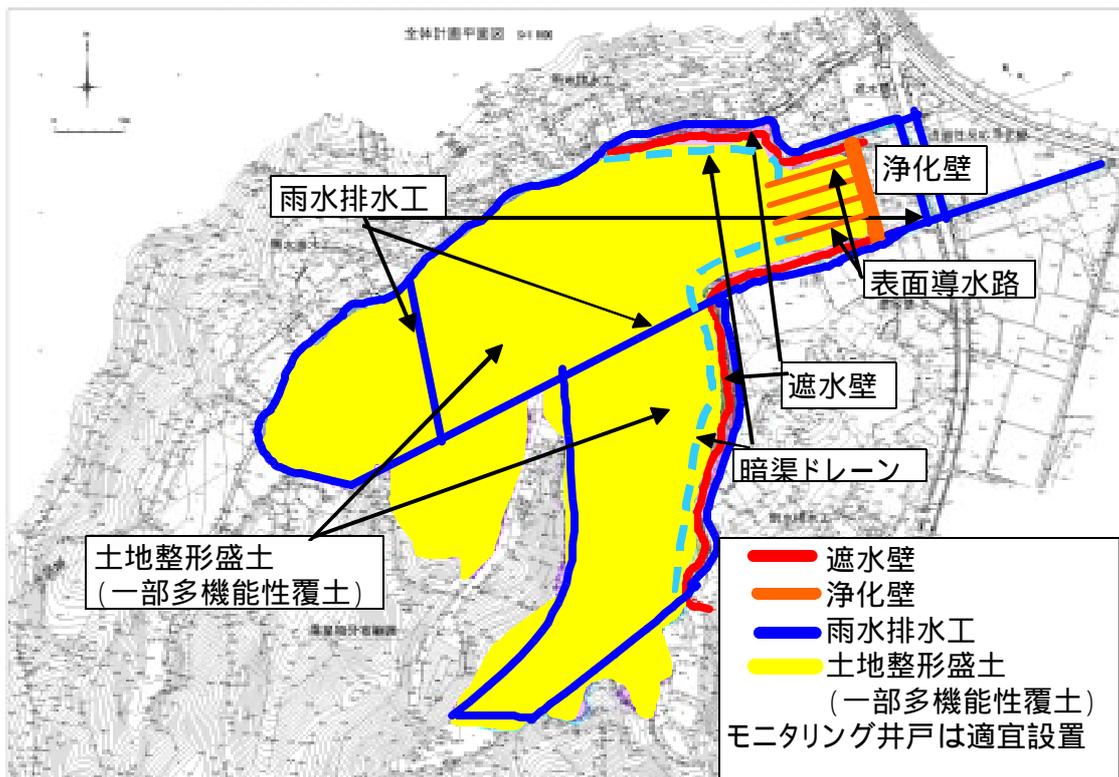


図2 対策工計画フロー

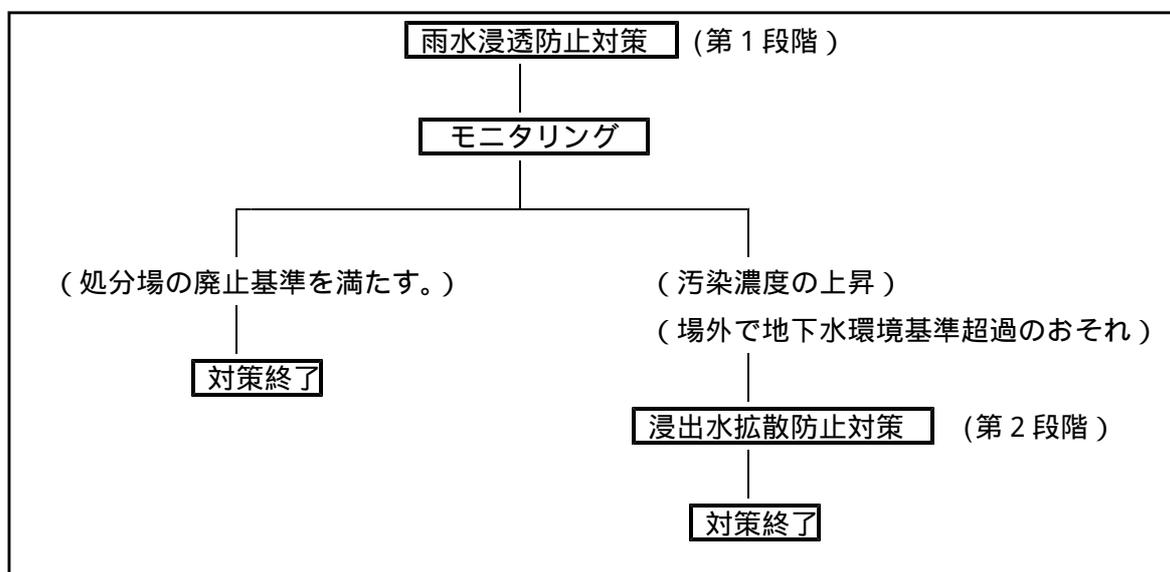


図3 標準横断面図(その1)

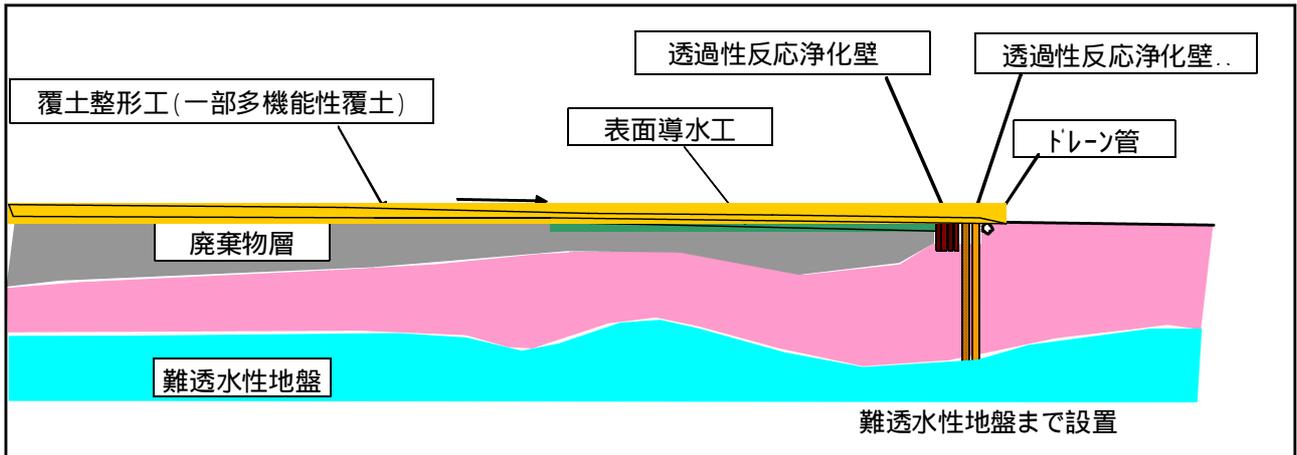


図4 標準横断面図(その2)

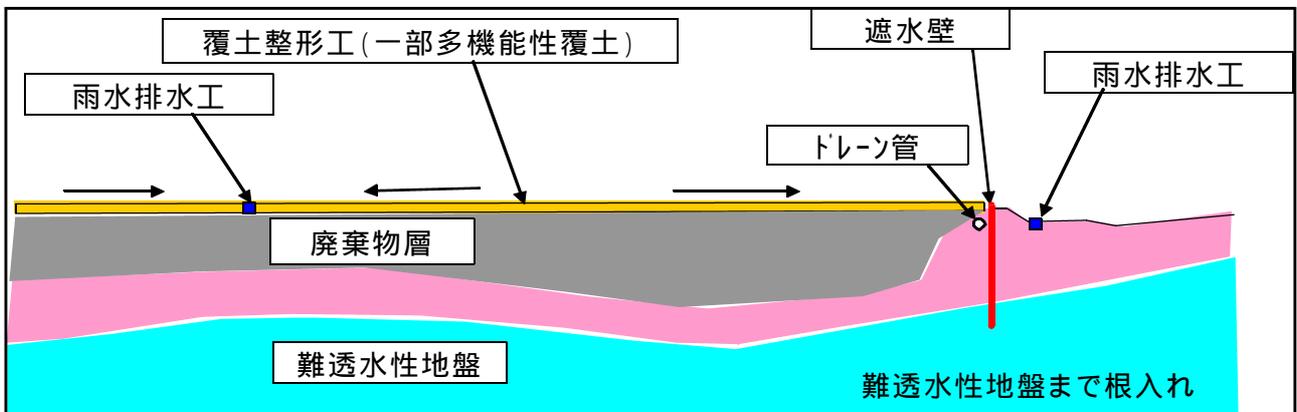


図5 多機能性覆土標準断面図

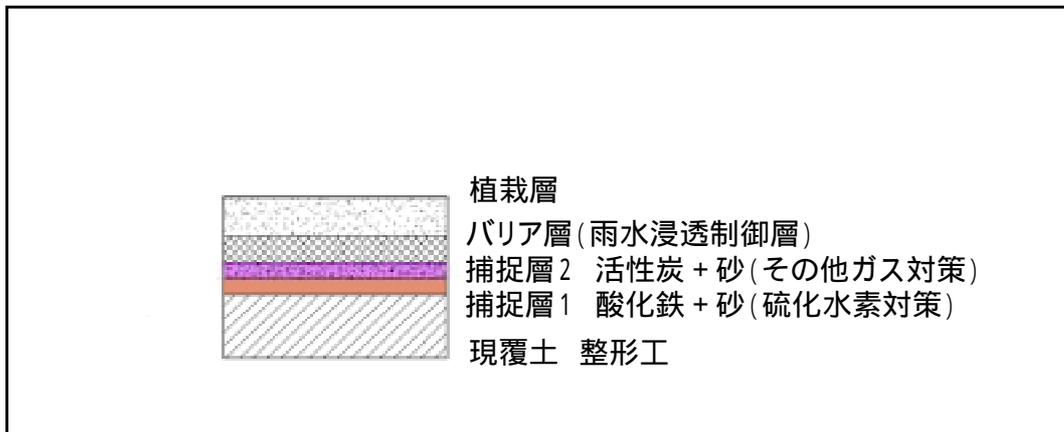


表1 多機能性覆土の機能

対策工	機能等
多機能性覆土	酸化鉄と活性炭の吸着層、バリア層(雨水浸透制御層)、植栽層の三層による覆土を行い、内部から押し上げられたガスを吸着し、放散を防止する。

図6 透過性反応浄化壁平面図

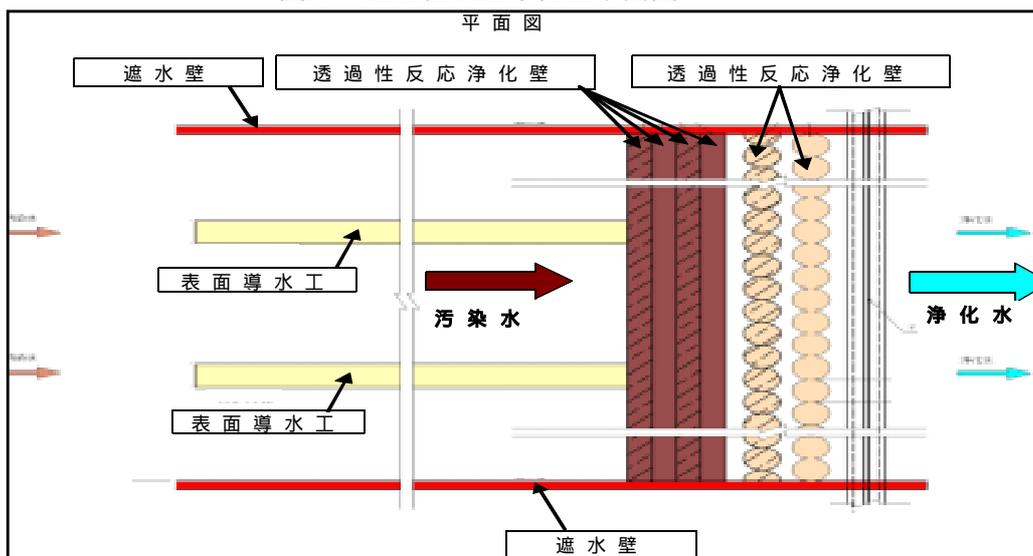


図7 透過性反応浄化壁断面図

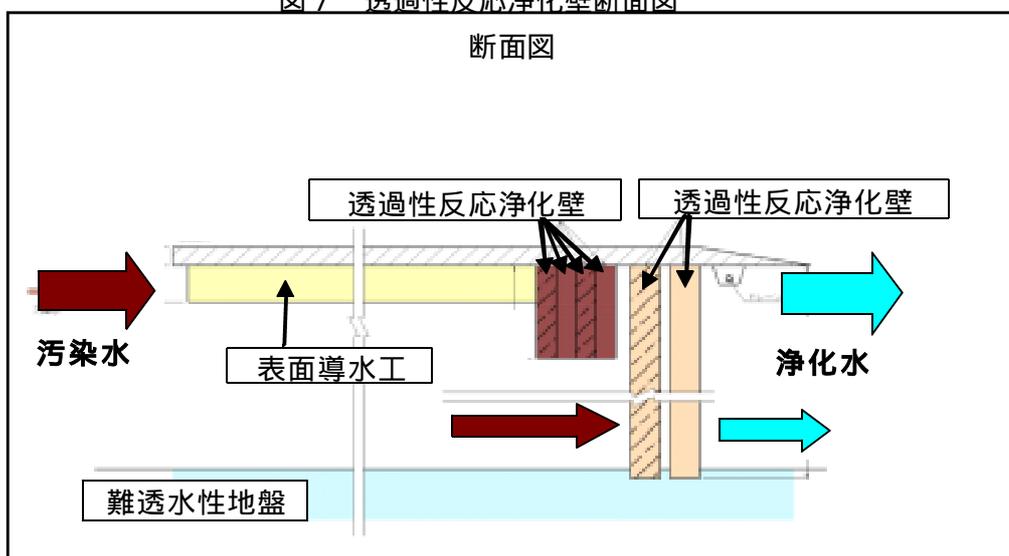


表2 浸出水拡散防止対策概要

対策工	機能
遮水壁	遮水性のあるソイルセメントなどによる地中連続壁を地下水の流れの下流側である処分場東側及び北側に難透水性地盤まで設置し、浸出水の拡散を防止するとともに汚染された保有水を浄化壁へ導水する。
透過性反応浄化壁	浄化材（黒ぼく土又は活性炭）と碎石を混合した土柱の連続壁（透過性反応浄化壁）を処分場入口付近に難透水性地盤まで設置し、浄化壁を通過するときに浄化材により汚染物質を吸着・浄化する。また、流速が早い浅層は、トレンチタイプ（帯状の溝）の浄化壁を増設し、対処する。
暗渠ドレーン・ 表面導水路	遮水壁設置により大雨時に埋立地内部の地下水水位が上昇し、浸出水が越流することが懸念されることから、暗渠ドレーンを遮水壁内側上部に設置するとともに浄化壁の前面に表面導水路を設置し、地下水が上昇したときに浄化壁まで地下水を導いて水位の上昇や越流を防止する。浄化壁の後側にも暗渠ドレーンを設置し、一定の流速が保たれるようにして越流を防止する。